

# 編修趣意書

## 教育基本法との対照表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
104-36	高等学校	芸術科	美術Ⅲ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	美Ⅲ 701	美術3		

## 1. 編修の基本方針

### 「自分の表現を追求する」

「美術Ⅲ」では、美術の創造的な諸活動を通して、生徒の美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てられるように心がけました。また、「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」の学習を基礎にして、生徒が独創的で個性的な表現と鑑賞に関する資質・能力を高め、感性と美意識をさらに磨くことができるよう、次のことを基底において編修しました。

#### 1 生活や社会を支える美術の役割を学ぶ

—— 生活や社会の中での美術の役割について考えを深めることのできる教科書です。

美術に関わる仕事をしている人の思いを作品とともに紹介したり、社会に関わる美術の仕事を紹介したりすることで、生涯にわたる美術との関わりを生徒が実感できるよう工夫しました。

#### 2 主題生成のための手がかりを示す

—— 主題を生むための手がかりを詳しく紹介している教科書です。

各題材において、作品の発想のしかたや表現技法などを具体的に示し、生徒たちが自ら作品の主題を生み出せるようにしました。掲載作品については、作者の言葉を示したり、制作風景やアイデアスケッチを掲載することで、作者の表現の工夫を感じ取らせる工夫をしました。

#### 3 造形的な見方・考え方を育む

—— 「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」で培った造形的な見方・考え方を、さらに育んでいくことのできる教科書です。

造形的な視点を豊かにもって対象や事象を捉え、個性を生かして創造的に考えを巡らせる資質・能力を育成できるよう、関連性のある作品を比較して鑑賞させる題材を設けたり、適宜、造形的な視点に関わる問いかけを入れたりしました。

# 1

## 生活や社会を支える美術の役割を学ぶ

— 生活や社会の中での美術の役割について考えを深めることのできる教科書です。

### 美術に関わる仕事をしている人々の作品や言葉を掲載

生活や社会の中の多様な美術に主体的に関わる態度を育むことができるよう、巻頭には、美術に関わる仕事で活躍している人々が、その道を志すようになったきっかけや、美術に対する思いを掲載しました。

#### 私と美術

美術に関わる仕事をしている人たちは、どのようなきっかけでこの道を選んだのか、また、どのような思いで仕事に励んでいるのか、など、その道の深みを探ります。

##### 作品をつくるために生きている

作家 堀田千春 (1972年 - 東京都) 建築家 藤田千春 (1972年 - 東京都)

##### 人に感動を与えるテキスタイルを

作家 須藤玲子 (1953年 - 東京都)

##### 記憶によって未来をつくる建築

作家 白根 徹 (1973年 - 東京都)

##### 本との出会いで変わった

作家 真鍋大度 (1976年 - 東京都)

##### 大事なのは、その人間を知ること

作家 木下 水登 (1947年 - 東京都)

##### アートを通して世界を学び続ける

作家 片岡真実 (1936年 - 東京都)

##### 1枚の写真から広がる何かがある

作家 津田 政志 (1979年 - 東京都)

##### 人間の文化遺産を守るために

作家 若井孝久 (1955年 - 東京都)

##### デザインはつくり役

作家 藤田文江 (1943年 - 東京都)

P.5~7「私と美術」

「私と美術」では、美術家やデザイナー、美術館館長や絵画保存修復家など、美術にさまざまな形で関わる人々を紹介。

### 美術に関わる職業を紹介

生活や社会に生きる美術の力を生徒が実感できるように、美術に関わるさまざまな職業を具体的に紹介しました。

#### 社会を支える美術の仕事

社会を支える美術の仕事は、多岐にわたります。ここでは、その中でも代表的な職業を紹介しています。

#### 住まいに関わる職業

住まいに関わる職業は、建築やインテリアデザインなど、私たちの生活に密着しています。

#### ファッションに関わる職業

ファッションに関わる職業は、ファッションデザイナーやスタイリストなど、私たちの衣生活を彩ります。

#### 映像に関わる職業

映像に関わる職業は、アニメーターや映像監督など、私たちの視覚を魅了します。

P.30~33「社会を支える美術の仕事」

「本に関わる職業」「住まいに関わる職業」「ファッションに関わる職業」「映像に関わる職業」の四つに分類して紹介。

## 2

### 主題生成のための手がかりを示す

—— 主題を生むための手がかりを詳しく紹介している教科書です。

#### 作家の制作の様子を詳しく紹介し、主題を生み出す手がかりを示しました

生徒が作品の主題を生み出す手がかりになるよう、作家の制作の様子がわかる写真や言葉を豊富に掲載しました。



P.23「作家の手法 中村勇吾」



P.8~9「鉛筆の可能性」

「鉛筆の可能性」という題材では、画家・木下晋を紹介。作者の言葉とともに制作中の様子を詳しく紹介しました。

「ウェブデザインを考える」という題材では、インターフェースデザイナー・中村勇吾を紹介。作者の言葉とともに複数の作品が掲載されているので、作品に通底する作家の考えを知ることができます。

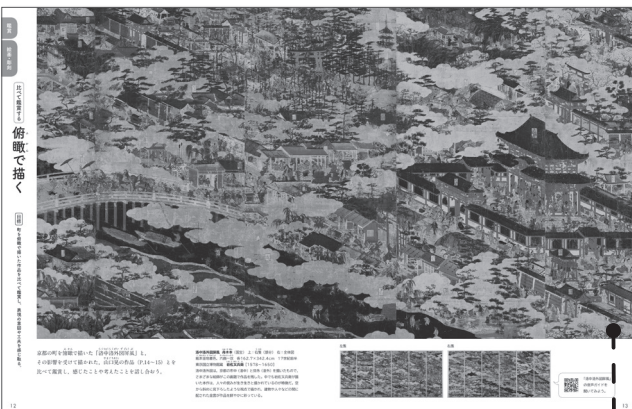
## 3

### 造形的な見方・考え方を育む

—— 「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」で培った造形的な見方・考え方を、さらに育んでいくことができる教科書です。

#### 造形的な視点で比較し、鑑賞する題材

「比べて鑑賞する 俯瞰で描く」という題材を設け、江戸時代に描かれた作品と現代作家による作品を連続して掲載。両者を比較して鑑賞することで、それぞれのよさを感じ取ることができ、造形的な見方や考え方を育成することができます。



P.12~15「比べて鑑賞する 俯瞰で描く」

細部まで鑑賞できるよう、それぞれの作品を見開きで大きく掲載。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
はじめに	美術の活動へと誘う「自分の表現を追求する」という文章を掲載し、生徒が真理を求めめる態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うよう配慮した。【第一号】	P.2-4
	職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うため、美術に関わる仕事をしている人たちの言葉やその作品を掲載した。【第二号】	P.5-7
	生命を尊び、自然を大切にすることを養うため、身近な植物を材料にした作品とその制作の様子を掲載した。【第四号】	P.2-4
絵画・彫刻	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うため、各題材に目標を明示した。【第一号】	P.8-19
	互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作品を掲載するとともに、適宜「作者の言葉」を添えた。【第二号】	P.8-19
	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うため、その場所の歴史、特徴を生かした作品を鑑賞する題材を設定した。【第三号】	P.18-19
	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うため、我が国で大切にされてきた美術文化を学ぶことができる題材を設定した。【第四号】	P.12-15
デザイン	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、各題材に目標を明示した。【第一号】	P.20-25
	互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作品を掲載するとともに、適宜「作者の言葉」を添えた。【第二号】	P.20-25
	現在活躍している作家を取り上げ、作品をつくるうえでの考えなどを紹介した「作家の手法」を掲載し、作家としての生き方に触れ、勤労を重んずる態度を養うよう配慮した。【第二号】	P.23
	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、公共施設のデザインや、公共施設のウェブサイトのデザインなど、社会におけるデザインの働きを取り上げた。【第三号】	P.20-23
	諸外国の文化を反映して考えられた美術館の建築デザインを掲載することで、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うよう配慮した。【第五号】	P.20-21
映像メディア表現	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、各題材に目標を明示した。【第一号】	P.26-29
	互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作品を掲載するとともに、適宜「作者の言葉」を添えた。【第二号】	P.26-29
	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、他者と共同で制作された作品などを掲載した。【第三号】	P.29
資料	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求めめる態度を養うよう、社会を支える美術の仕事に関する資料、ポートフォリオの制作についての資料、美術館の役割についての資料などを掲載した。【第一号】	P.30-39
	技法や用具の使い方などを汎用性の高い内容に整理して掲載し、生徒自身が必要に応じて参照することで、自主及び自律の精神をもって学習を進められるように配慮した。【第二号】	P.38-39
	美術に関わる多くの職業について紹介し、それらがどのように社会を支えているのかを学ぶことができる資料を掲載することで、職業及び生活と美術との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるよう配慮した。【第二号】	P.30-33
	公共施設である美術館が社会に果たしている役割や、美術館が多くの人々の協働によって支えられているということを学ぶことができる資料を掲載することで、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう配慮した。【第三号】	P.36-37

# 編修趣意書

## 学習指導要領との対照表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
104-36	高等学校	芸術科	美術Ⅲ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	美Ⅲ 701	美術3		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

「高等学校学習指導要領 第1章 総則」および「第2章 第7節 芸術」,「第2款 第6 美術Ⅲ」に示された内容に基づいて編修しました。美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力の育成を目指しました。さらに、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、次のことを基底において編修しました。

### ①教科書の構成

学習指導要領の構成に合わせ、A表現の「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」とB鑑賞の領域、巻末資料とに分けて整理しています。また、それぞれが一目で分かるようにインデックスで色分けをし、授業で活用しやすいようにしました。また、授業でよく行われる題材については特に、表現の手立てを詳しく示しました。創造的な表現や鑑賞の意欲を高めるため、適宜、次のようなページを設けています。

- ・「作家の手法」……作家が作品をどう発想したのかを紹介。生徒が主題を生み出し、発想して構想する手がかりとして設けました。
- ・「比べて鑑賞する」……関連性のある作品を並べて掲載。比較して鑑賞することで、作者の表現の工夫を感じ取れるようにしました。

### ②造本上の工夫

巻頭を観音開きの構成にしたり、細部まで鑑賞させたい作品を見開き2ページで大きく掲載したりするなど、生徒たちの表現や鑑賞の活動を豊かにするため、造本やレイアウトを工夫しました。



美術に関わる仕事をしている人たちの作品や言葉を、3ページにわたって掲載。生活や社会に関わる多様な美術を実感できるように工夫しました。

P.5~7「私と美術」

### ③ 巻末資料の充実

卒業をひかえた生徒がこれまでの自身の活動を振り返るとともに、職業への意識を高め、生涯にわたり美術を愛好する心情をはぐくむことができるようにするため、学習を支える巻末資料を充実させました。

#### 【社会を支える美術の仕事】(P.30～33)

美術の学習を生かすことのできるさまざまな職業について、4ページにわたって紹介しています。「本に関わる職業」「住まいに関わる職業」「ファッションに関わる職業」「映像に関わる職業」の四つに分類して紹介することで、身近な事物が美術に関わる仕事に支えられているということを生徒が実感できるようにしました。

#### 【ポートフォリオをつくる】(P.34～35)

「美術Ⅰ」及び「美術Ⅱ」の学習を基礎とする「美術Ⅲ」の性格を鑑み、これまでの自身の制作を振り返り、作品集を作成する活動を資料として取り上げました。

#### 【美術館の役割】(P.36～37)

「美術館の役割」では、美術館の機能や、美術館を支えている人について紹介し、美術館の社会的役割について学ぶことができるようにしました。

### ④ 二次元コードでさらに深い学びへ

各題材や巻末資料には、適宜、二次元コードを掲載し、関連するウェブコンテンツへリンクしました。

#### 【音声ガイド】

大きく掲載する鑑賞図版には、作品に関する情報をコンパクトにまとめた音声ガイドを用意し、鑑賞を深められるようにしました。

#### 【技法動画】

鉛筆デッサン（静物、石膏像）、風景画、油彩画、日本画などは、描く手順を動画でわかりやすく紹介しました。また、彫刻（塑造）や、版画（多版多色刷木版）をつくる手順も動画で詳しく紹介しています。

#### 【作家の制作過程を記録した動画】

巻頭で紹介した作家ヴォルフガング・ライブの制作過程を動画を用意し、作者の表現の工夫をさらに捉えやすくしました。

#### 【生徒作品】

全国の生徒作品を掲載したウェブコンテンツを用意し、関連する題材にリンクさせました。多様な生徒作品を鑑賞することで、自分の表現へ生かすことができます。

全国の高校生の作品を集め、カテゴリごとにまとめたコンテンツへ適宜、リンクを貼っています。作品画像をクリックすると、拡大図版と「作者の言葉」を確認することができます。

#### 【美術史ワード】

美術史に関連する用語をわかりやすく解説しました。

#### 【関連ウェブサイト】

作家作品の動画や、作家のウェブサイトなど、関連するサイトにリンクさせました。



## 教科書の特徴

編集上の留意点	
教育基本法・ 学校教育法との対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育基本法, 学校教育法の理念を踏まえ, 美術の学習を通して幅広い知識と教養を身につけ, さらに, 「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力」など, 生きる力を支える能力を養えるよう配慮しました。</li> </ul>
学習指導要領との対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領の目標および内容をもれなく指導できるよう, 題材を選定・作成しました。</li> <li>各題材の目標を明確にし, 表現や鑑賞の活動を通して「発想や構想に関する資質・能力」, 「技能に関する資質・能力」, 「鑑賞に関する資質・能力」を着実に身につけられるよう, 全体を通して系統的に配列しました。</li> </ul>
題材の配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」という分野ごとに構成し, 題材の内容に応じて「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」と明記することで, 生徒が学習の内容をイメージしやすいよう配慮しました。</li> <li>巻末に, 材料と用具や〔共通事項〕に関わる資料をまとめた「資料」を設け, 生徒が必要に応じて活用できるようにしました。</li> </ul>
掲載作品の選定	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達段階や, 生徒の学習意欲を喚起することを考慮し, 作品を選定しました。</li> <li>掲載作品については, 地域や時代, 性別に偏りが出ないように配慮し, また, 生徒の主体的・対話的な学びが生まれるような作品を選定しました。</li> </ul>
主体的・対話的で 深い学びへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>各題材の作品の掲載意図を明確にし, 生徒が主体的に学習に取り組めるようにしました。</li> <li>作家の制作過程を詳しく示すことで, 「自分ならどう作品をつくりたいか」と主体的に考えられるよう, 工夫しました。</li> <li>生徒が主体的に表現活動を行えるよう, 巻末資料を充実させました。</li> </ul>
〔共通事項〕への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>各題材に適宜, 〔共通事項〕に関わる問いかけを入れ, 生徒が〔共通事項〕を意識できるようにしました。</li> <li>巻末資料で, 〔共通事項〕に関わる内容を取り上げました。</li> </ul>
伝統・文化の 取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本美術を大きく取り上げてそのよさを感じ取らせる工夫をし, 我が国と郷土を愛する姿勢を育成できるようにしました。</li> <li>世界文化遺産に登録されている文化財を取り上げてそのよさを感じ取らせる工夫をし, 他国の文化を尊重する姿勢を育成できるようにしました。</li> </ul>
知的財産権や 肖像権への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>著作権や肖像権についての解説を掲載し, 作品や, 人のうつった写真や映像を利用するときはルールを守ることを, 注意喚起のマークとともに示しました。</li> </ul>
特別支援教育への配慮	<p>教科書のユニバーサルデザイン, カラーユニバーサルデザイン(色覚特性)と, 学習上支援が必要な生徒のために, 特に以下の点に配慮しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の全てのページについて, 専門家の校閲を受けました。</li> <li>図版と図版の間を空けたり, 罫線を引いたりして, 境界を明確に区別できるようにしました。</li> <li>文字がやや小さくなる場合は, 読みやすさを強調してつくられたUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しました。</li> </ul>
製本・印刷など	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞図版や文字が鮮明に印刷できる, 発色のよいコート紙を使用しています。</li> <li>環境への負荷が少ない, 用紙・植物油インキを用いています。</li> <li>製本は堅牢で, 生徒がページを開きやすいよう綴じ方にも工夫をしています。</li> </ul>

## 2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容			該当箇所
		A 表現	B 鑑賞	〔共通事項〕	
はじめに	自分の表現を追求する	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.2-4
	私と美術	(1) ア (ア) イ (ア) (2) ア (ア) イ (ア) (3) ア (ア) イ (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.5-7
絵画・彫刻	鉛筆の可能性	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.8-9
	作家の生涯と作品 フリーダ・カーロ		(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.10-11
	比べて鑑賞する 俯瞰で描く 「洛中洛外図屏風」 「百貨店圖 日本橋三越」		(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.12-15
	ものからの問いかけ	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.16-17
	自然との対話		(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.18-19
デザイン	世界の美術館と出会う		(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.20-21
	ウェブデザインを考える		(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.22-23
	本をデザインする	(2) ア (ア) イ (ア)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.24-25
映像メディア表現	演出して撮る	(3) ア (ア) イ (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.26-27
	映像を体感する		(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.28-29
資料	社会を支える美術の仕事		(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.30-33
	ポートフォリオをつくる	(1) イ (ア) (2) ア (ア) イ (ア) (3) ア (ア) イ (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.34-35
	美術館の役割		(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.36-37
	学習を支える資料一覧	(1) イ (ア) (2) イ (ア) (3) イ (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.38-39
	あとがき		(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.40-41